

377 中央大学創立記念並びに新旧学長送迎会

〔法学新報〕第24巻11(281)号 大正3年12月1日

○中央大学創立記念並新旧学長送迎会 去月十一日は我中央大学創立記念日に相当するを以て併て新旧学長の送迎会を兼ね例年の如く同大学大講堂に於て午後一時より盛大なる記念式を挙行したり学生並に学員諸氏を始めとし講師來賓等の出席する者二千余名に及び一同著席するや学生総代の新旧学長送迎の辭に次て奥田新学長及び岡村旧学長は後段学員会に於けると略々同様な挨拶を兼ね学生諸氏を鼓舞激励せられ式終りて余興に移り老海一一座の太神楽を始めとし細川風谷の講談槍術二千石、永田錦心の琵琶別れの杯及乃木大将高峰筑風の筑前琵琶川中島等何れも拍手喝采の裡に演了したり其れより階下並に庭内に設備したる数个所の模擬店を開き一同歓を尽すこと稍久しく其全く学生諸君の散会せしは五時頃にして他方に於て学員諸氏は六時より学員秋季総会兼学長送迎会に移り一同著席するや同会理事長花井博士は岡村前学長奥田新学長に送迎の辭を呈して「両先生の本大学創立以来三十年間孜孜夙務に尽瘁せられしことは衆目の認めて疑はざる所今特に之を喋喋するは贅疣たり然れども吾人の忘れんと欲して忘るる能はず没せんとして没し難きものは両先生の徳沢崇高なること猶ほ日東の空に高く秀つる富士

の峰の如き概あるの一事是なり今や岡村先生病の爲めに学長を辭し奥田先生其後を襲はれたるも両先生の熱烈なる精神と尊崇すへき徳沢とは創立の当初より更に渝らざるか如く未来永劫本大学と共に消ゆることなきものにして今夕の宴を名けて送迎会と謂ふと雖も是れ寧ろ吾人に取りては形式上の事にして其実質に於ては何等の盈欠あるなし」と述べ岡村前学長は之に對し余は学長就任以來病の爲め志の寸分をも尽す能はずして重責を曠廢せしを深謝すと謙遜なる語辭を以て答辭とせられ奥田新学長は「不肖の身を以て学長の重任を継ぐは内に顧みて忸怩たるものあり併し乍ら岡村前学長に静養の余暇を供するは刻下の要求にして又夙務に關しては伊藤、岡野の両理事専ら常務に軼掌せらるると学員諸氏の直接間接の助力あるとに依り大に意を強うし此大任を襲ふに至れり今後此等内外の助成に依りて職責の幾分を完うすることを得は幸甚なり」と述へて答辭とせらる其より花井博士を座長に推し付議事項中(一)理事評議員改選の件は学長の指名に委ぬることと爲り(二)岡村前学長に感謝状を呈し紀念計画を爲すこと並に其実行委員数名を選ひ之に關する事務を託すること(三)津田毅一、増田伝次郎、武藤盛雄、尾崎重美の四氏を学員に推薦することは孰れも満場異議なく可決し了て宴会に入り談笑沸くか如く各歡を罄して其散会したるは九時を過ぐ当日学員総会に出席せられたるは伊藤悌治、磯谷幸次郎、石谷伝市郎、乾喜代八、岩井磯次郎、岩田匡彦、岩崎鉄次郎、花井卓藏、早川六郎、馬場愿治、春木一郎、星野照、堀江專一郎、保坂栄之丞、堀光亀、徳光好文、徳見広元、富田勇

太郎、千葉彦治、尾畑喜平、小栗盛太郎、岡田淳司、大内省三郎、大竹清七、小野瀬不二人、太田団野、太田嘉太郎、岡野敬次郎、小山残平、河野秀男、亀山要、川島仔司、河島台蔵、川手忠義、神田常吉、笠原文太郎、梶尾円平、加瀬和二郎、川上定次郎、横田民造、横山親、谷野格、高崎介蔵、武田明、武田鬼十郎、竹内卷太郎、田中文蔵、田中利三、竹内幸次、宗弘一、辻本友次郎、中山佐市、中沢芳朗、卜部喜太郎、内田清吉、黒田穰、窪田欽太郎、柳川勝二、安田清忠、柳田宗一郎、山田清一郎、山本角之助、矢淵義太郎、松沢卓規、前田顕一郎、前田久次郎、松隈昌隆、藤田隆三郎、古谷伊平、古田良三、深田鶴松、二上兵治、小林武彦、小松林蔵、小泉矩、永滝久吉、手代木佑寿、安藤亮、明石哲雄、新井要太郎、安藤則光、佐藤八次郎、佐久間賢治、三宅硯夫、宮地正彰、島野金吾、志賀三行、白井茂、塩谷恒太郎、日能偕太郎、平井彦三郎、平城慈門、広井辰太郎、守川元介、菅野松江等の諸氏なりき